

(バラ科) ○ハマナシ, ○ノイバラ. (アブラナ科) ハマハタザオ. (ナデシコ科) ハマナデシコ, マンテマ, ミミナグサ. (スペリヒュ科) ○スペリヒュ. (アカザ科) ○アカザ, オカヒジキ, シロザ. (ビャクダン科) カナビキソウ. (ヤナギ科) ジャヤナギ. (イグサ科) イ, ヒライ. (カヤツリグサ科) カヤツリグサ, コウボウシバ, コウボウムギ. (イネ科) アシ, エノコログサ, オオウシノケグサ, オニシバ, カモガヤ, ケカモノハシ, ギョウギシバ, キンエノコロ, ススキ, スズメノチャヒキ, シバ, ○チガヤ, ナギナタガヤ, ハタガヤ, ハマススキ, ヒメジハ, ヌメリグサ。

群落の状況(附図参照) 荒浜村に隣接する鯖石川から鶴川に至る海岸砂丘およそ3kmの群落状況を示すもので粗い砂土を乾燥した瘠薄な地味に加えて四時風のために植生も貧弱で屢々群落の移動があり変化するがその1例を示すものである。

終りに調査に便宜を与えた県衛生部当局, 県砂丘試験地井浦久弥技師, 採集に協力された当時, 柏崎高校生, 根立昭治君, 附図の淨書を煩わした吉村衛君に厚くお礼を申し上げる。

文献: 1) 木村雄四郎, 澄戸道夫, 楠渡惟訓: 薬学雑誌 87: 1429 (1967).

(日本大学理工学部薬学科)

○生薬学という語の創造者について(久内清孝) Kiyotaka HISUCHI: On the first Japanese equivalent for pharmacognosy.

今日普及している生薬学ということばはいつ, どなたが創製されたものか気にかかっていたが, 今まで判然しなかったところ, 近頃珍書集めに熱心な浅野正美氏が明治13年に出版された大井玄洞著生薬学という珍本を手にいれた。この本の初めに大井氏は *Pharmakognosie* の適当な訳語がきまっているので, はじめてこの名称をつくったと書いている。これは著者が自からかいているのであるから信用できるものと思われる所以一応こゝに資料として記す。

□熊本記念植物採集会(山城学他): 熊本県植物誌, 26×20, 図版56, 392ページ, 30.3.1969, 熊本県記念植物採集会(熊本市古城町第一高等学校内)発行, 價3,300円。熊本県の完全な植物誌で, 地質, 気候, 植物, 天然記念物, 肥後の名花, 県内植物研究史及び文献目録, 県内地名便覧(ふり仮名つき), コース案内, 里程表, 地名索引, 生薬表, 蝶の食草, 西暦と日本暦対照表などに分けて編集され, 別に地質図と県の概念図が附属している。巻頭には同県の植物調査に功績のあった上妻博之氏の筆跡と肖像とをかかげ, 扉には八代の手漉の日本紙にツクシフウロの花を漉き込んだものを用いた入念の装幀である。もちろん, 大部分は植物目録であるが, 単なるラリスト目録ではなく, それぞれの関れん事項や詳しい産地が記されているので, 至れりつくせりである。植物趣味をもたれた旧藩主細川家の土地柄にふさわしいりっぱな出版である。

(久内清孝)